常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ

令和２年１１月６日(金)
その３

◇ 校歴を紐解く❽【正門柱】

校地の色鮮やかな樹木や三河地区初の多目的スペースなど、本校の推しはいくつもあるが、中でも一番の推しは【正門の門柱】と【正門から続く階段】である。

門柱は他校にはない特徴がある。ほぼ等間隔に並ぶ４本の柱がある点だ。
他校の門柱が２本であるのに対し、本校が４本あるのは、構造によるものである。

青木川沿いに建造される関係上、川の氾濫等の水害から学校を守るために、青木川堤防道路（青木川水面）よりもはるかに高い位置に校舎やグラウンドを建設している。当然のことながら坂は必要となるが、かといって急勾配の階段は子供たちのことを考えると設けられない。よって、なだらかで長い階段が設けられ、その階段の向こうに校舎があるという構造となったのだと考えられる。

さらに、雨水の排水を考慮すると、水の流れる経路数を増やすとともに、経路の幅をもたせる必要がある。
こうしたことから、児童の歩く道の幅を確保しつつ、その横に車道の通用門を併設したと考えられる。

こうして、児童の通学用の歩道の左右に２本、さらに車道の通用口の両側に２本、計４本の門柱を配置したと考えられる。実に贅沢だが、まさに【顔】である。

※門柱・門壁　修復中の写真（撮影：１０月上旬　再塗装中　下塗り後の様子）

学校の【顔】であるがゆえに、創立 120 年・移転新築 34 年を節目として門柱と門壁の修復を行うことにした。修復の経過を以下に示す。

＜門柱＞

❶

・最初の作業は「校名石板の文字の再塗装」である。
・マスキングテープである程度の覆いをした後、ラッカースプレーで塗装する。堀面が荒く、塗装が剥げやすいので三度塗りをする。
・塗装が乾いたらマスキングを取り、カッターナイフの刃で表面を斫る(はつる)ように動かすと、文字以外の余分な塗料が削り取られる。
・仕上げはラッカーシンナーで汚れを取る。

・次の工程は校名石板のマスキングである。
・マスカ―フィルムは DAISO で購入。110 円。

❷

・塗装用のローラーも試してはみたが、塗装面に凹凸があり、ムラができやすい。よって、刷毛を使用した。

・風雨の影響を受けやすい赤➡部分は、塗装がほとんど剥がれており、コンクリートの地の部分も風化劣化の状態にある。よって、必要に応じて重ね塗りを行った。
※塗装が生きている部分は厚めに一度塗りをすればよい。

❸

・壁用の「仕上げ塗料」と「下塗り塗料」は、明らかに性質が異なることを塗装して実感。

・下塗り塗料を塗った面は「マット感」が強く、上塗りをした仕上げ面は、太陽光が当たると光沢を出す。晴れた日は輝いて見え、雨露を浴びると浮き上がるように白さが際立つ。

・「雨の日は、ごまかしがきかない」
塗装が劣化しても、晴れた日は太陽光によりそれなりに見えるが、雨の日は汚れが際立つ。「雨の日は、ごまかしがきかない」のだ。

以上で門柱は仕上がりだが、安全性を考慮したトータルで考えると、補修が必要な部分がある。青➡の門柱下のコンクリートである。

6月に高圧洗浄機でコケを取り除いて一旦は白くなったが、10月にはご覧のようにコケが付着した状態になる。このコケが増殖すると雪面のように滑るのだ。

そこで、コケを取り除くのではなく、コケが付着しにくいように塗装を施すことにした。塗料もコケの特性を考え、門柱の塗装に使用した水性ペイントではなく、油性ペイントを使用した。このコンクリート部分の塗装は、壁面修復のため公務員の山田さんに行ってもらったが、写真❹のように大変仕上がりがよい。

❹門柱修復完了

＜門壁　その１＞

・写真を見てもらえば分かるが、左は雨天時に撮影したもの。汚い部分は、より汚く見える。

・劣化が激しい部分は写真のように部分的に補修し、その後、下塗りに入る。必要に応じて重ね塗りを行う。

・壁の黒ずみは、コケが沈着したもの。
・コンクリート部分は新たに発生したコケ。（雨天時撮影）

＜門壁　その２＞

◆補修前➡➡

◆高圧洗浄後➡

◆塗装後

学校を取り囲むコンクリート壁の一部（門の周辺の赤□）の補修を行うことで、視覚的効果により門を大きく見せている。

＜新生白亜の正門修復完了＞R2.11.2 雨天時撮影 「雨の日は、ごまかしがきかない」